

(様式1)

平成28年度 学校評価報告書 (学校評価結果のとりまとめ)

神戸市立こうべ小学校
校長：細川 佳宏

項	重点目標(取組)	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
一 け人 た一 力人 をの 伸自 ば立 すに 向	・きめ細やかな指導の充実 一人一人に応じた指導 の充実を図る。	・「学ぶ力・生きる力向上支援員」により、つまづき のある児童への個別の対応がしやすくなった。 ・成績上位者と下位者に2分化しており、下位者をいか に底上げするかが課題である。	B	・支援員と担任との連携を深め、より有効な複数指導の あり方を研究し、基礎的な内容の習熟を図るととも に、力のつく授業の取組をさらに続けていく。 ・配当時間の多い支援員を確保し、担任と協力しながら 週2回程度の放課後学習を行う。	・放課後学習の趣旨はよく理解できるが、そこに参加する 児童については配慮が必要である。普段の学習の中で教 師がしっかりと児童の学習進度を見極め、保護者同意の もと実施すべきである。 ・授業中には理解できたと思っても定着していない児童 がいると思われるので、そういう児童への支援をして ほしい。
	・「力のつく授業」と「読書 活動」の推進	・1時間ごとの目標を明確にして授業を進めるようにし た。今後、主体的な学びの力の育成が望まれる。 ・ステップタイムに「10分読書」を継続した。全教師で 読み聞かせをする「お話広場」も行い、本に親しむ活 動は定着してきている。	A	・児童自らが課題をもち、問題解決を図る学びの実現を 目指した。アクティブラーニングとして問題解決型の 学習を実践していく中で、児童のより主体的な学びの 場を創造していきたい。	
実教 力職 員を 磨き 学校 の魅 力と	・校内研修の充実 積極的な授業公開によ り教員の資質向上を図 る。	・「子供自ら考えたくなる、活動したくなる発問の工夫」 をテーマに、低・中、高学年ごとに定期的に研修に取り 組み授業力の向上を目指した。 ・本校児童の実態把握をしっかりと行い、今つけないけれ ばいけない力は何かを見極めながら、よりよい授業づ くりを進めていく必要がある。	B	・各教科において、国語科で培った能力を基本に言語活 動を充実することの必要性を十分に理解し、言語活動 を各教科の計画に位置づけ、授業の構成や進め方を改 善する。 ・児童の実態を把握した上で、日々の授業がより充実し ていくよう研修を進めていく。	・保護者へのお知らせの基本は紙ベースであるが、それを 補う形でメール配信は有効である。紙では伝わらない事 情も踏まえ、うまく使い分けながら利用していくとよ い。 ・学校ホームページはほぼ毎日更新しており、学校の様子 がよく分かってよい。写真の選び方等難しい面はあるが 今後も掲載内容を工夫しながら継続してほしい。
	・情報発信の充実 学校だよりや学校HP 等により、情報発信の充 実を図る。	・学校だより、学年だよりは月1回のペースで発刊。ホ ームページもほぼ毎日更新を行った。学習面での取組 についての情報発信も少しずつ増やすことができた。 ・緊急時には、ミマモルメによって迅速に家庭連絡が行 えた。	A	・ホームページ閲覧者をさらに増やしていくために、掲 載内容の充実を図るとともに、保護者や地域の方に必 要な情報を新鮮さをもって提供していきたい。 ・ミマモルメの登録率をより一層高め、緊急時に確実に 家庭連絡ができるようにしたい。	
特 色 あ る 神 戸 の 教 育 を 更 に 発 展 さ せ る	・多文化共生を核とした 教育の推進	・学級づくりにおいても多文化共生を中心にした取り組 みを進めるようにした。 ・「こうべふれあいフェスティバル」を毎年開催し、国 際理解・多文化共生を学校の柱とした教育を推進し た。	B	・温かい人間関係が育つよう、日々の学級づくりや授業 を工夫していく。 ・特別な教科となる道徳を中心に各教科、特別活動など とも関連させながら人権意識の向上を図っていきな い。	・他都市に比べて神戸の図書館教育はまだ劣っているところ があるが、本校では学校司書やPTAボランティアによ り充実してきている。 ・各学年教室前に多くの本が並んでおり、中でも辞書がい つでも手に取れるようになってきているところがよい。 ・PTAとの連携をより深めながら、読み聞かせだけでは なくおすすめ本の紹介等、より創造的な活動へとつなげ ていくとよい。
	・「読書大好きこうべっ子」 本とのふれあいの充実 を図る。	・PTAによる読み聞かせの会、お話小箱によるストー リーテリング、教師によるお話広場等、年間を通じて 本に親しむようにした。PTAによる学年・学級文庫 の整備などもあり充実した取組が行えた。	A	・今年度の取組をもとに、さらに学校司書と担当教師、 またPTAとも連携を深めていく。 ・学校図書館の充実とともに、学年・学級文庫の整備を さらに進め「読書大好きこうべっ子」を目指す。	
市 民 が 自 ら 学 び 子 供 の 育	・家庭地域との連携 外部人材の積極的な活 用を図る。	・こうべふれあいフェスティバル、昔遊びの会、各学年 の親子ふれあいイベント、絵本の読み聞かせなど、さ まざまな面で外部人材の協力を得ることができ、児童 の活動が広がった。	A	・外部人材をより活用するために、次年度の学年に確実 に引き継ぎ、より多くの地域との連携を図るようにな す。また、神戸っ子応援団の取組を積極的に活用して いく。	・問題行動に対しては保護者の中に生まれる複雑な感情を うまくすいとれる何かがあればよいがなかなか難しい 面がある。学校としては組織としてできることをきちん と整理しておく必要がある。 ・問題行動を起こす児童への対処も大事だが、近くで見 ているが真面目にがんばっている児童へのフォローや ケアが大切である。 ・保護者の困り感をしっかりと聞いてくれてフォローして くれる場があると安心できる。スクールカウンセラーの 配置日数を増やしてほしい。
	・保護者との連携 学習習慣の向上を図る	・どの学年も毎日課題を出し、翌日に確実にチェックを 行うようにした。未提出者については、保護者とのさ らなる連携が必要である。 ・問題行動に対して、保護者の理解が得られないことも あった。	B	・ドリル類の全学年統一や学習方法の共通理解によっ て、より一層家庭学習を充実させたい。 ・保護者の理解を得るために日々の取組や指導について 正確な情報を伝えていく必要がある。	

